

# ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第57号 2024年3月

- ひろしまWENET2024男女共同参画セミナー（報告）、広島市議会傍聴記 ……1～2
- フラワーデモンひろしま（報告）、2024国際女性デーひろしま（報告） ……3～4
- 会員活動紹介、ひろしまWENETからのお知らせ ……4

## ひろしま WENET 2024男女共同参画セミナー（報告）



### 「女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けて」

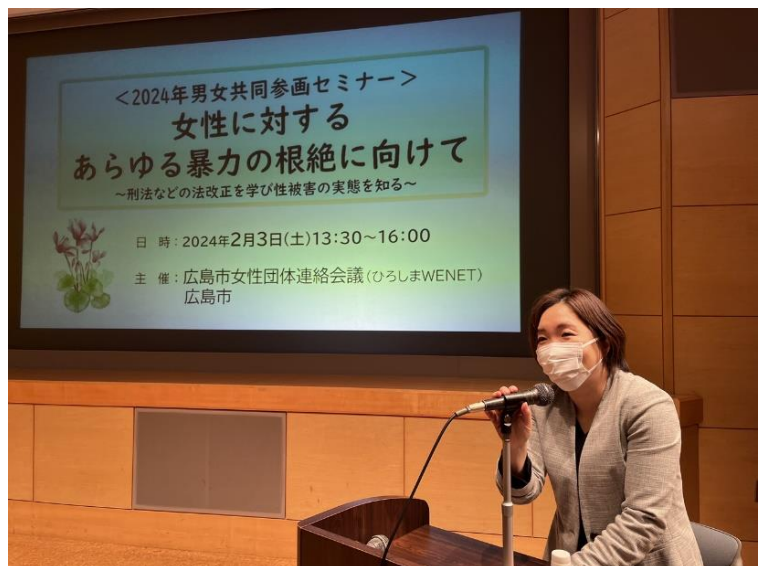
2024年2月3日、合人社ウェンディひと・まちプラザにて、ひろしま WENET と広島市の共催で、男女共同参画セミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、女性への暴力をなくすために、何が暴力なのか、その実態を被害者の手紙をもとに、より具体的に知ること、そして、昨年の法改正について学び、DV や性被害をなくすこと、被害者の支援をどのように行うべきか考えることを目的として開催しました。

あいにく当日の参加者は40人弱と例年のセミナーの参加者の半分程度になってしまいました。告知が十分でなかったと考えられます。

参加者のうち70代以上が半数をしめています。本来なら若い女性たちにも関心の高い話題だと思いますが、若い世代にアプローチできていない現状です。

参加者の職業は自営の方が約1/3を占め、会社員、公務員、教員、無職の方など多様でした。



#### 粘り強く被害者に寄り添って話を聞くことが重要

第1部は、寺西弁護士による「刑法・DV防止法改正、困難女性支援法制定の意義」と題した講演でした。

はじめに女性の貧困の問題など、社会的に弱い立場にある女性たちの現状について触れ、DV被害者の手紙を紹介しました。その手紙には「DVにより夫に支配された被害者が「自分が駄目な人間だからしょうがないと思っていた」とありました。

講師からは、粘り強く被害者に寄り添って話を聞くことが、重要であると強調されました。

性暴力の内容の説明とともに、DV防止法、刑法の改正、制定された困難女性支援法の内容についても説明されました。

#### 性暴力と認識するまでに時間がかかる

第2部ではベテランの相談員の方と寺西弁護士のお二人で、被害者の現状と支援について対談していただきました。その中で性被害を長くうけてきた女性の手紙を紹介し、性暴力と認識するまでに時間がかかる実態も紹介されました。

お二人は、法律は整備されつつあるものの、性暴力の被害者の支援はまだ課題が多いこと、またその性暴力を防ぐ前提となる性教育が行われていないことを指摘されました

## < もし性暴力にあったら >

また、最後に「小学校から身内(兄弟)に性被害を受け続けた人がいます…何かできることはないか」という相談も寄せられました。もし、性被害にあっている方がおられたら、「性被害ワンストップセンターひろしま」無料ダイヤル#8891 にぜひ相談してみてください。

刑法の改正など昨年大きな動きがありましたが、まだまだ課題ばかりです。性被害も多く報道されていますが、明らかになったのは被害の一部だと思われます。ひろしまWENETも今後もこの課題にとりこんでいきます。(中嶋)

### 性被害ワンストップセンターひろしま

無料ダイヤル #8891

## 参加者アンケートより

### 第1部 講演

90%以上の方が大変満足・満足と評価し、「とてもわかりやすく、理解できた。」「寺西先生のような方が被害者の相談にのっておられることに心強く思った。熱意が伝わってきた。」「女性の環境はまだまだ厳しい道のりで、地道に少しずつでも先生方のように変えていく努力が必要だと思った。」など、多くの方に講師の熱意が伝わり、被害者を支援されている日ごろの活動に共感が寄せられました。

### 第2部 講師と相談員との対談

90%近い方から大変満足・満足との反応で、「暗いお話を明るくトークされていたので、聞きやすかった」「子どもの被害が多いことにビックリ。性教育が大事ということ、『私の言葉を持つ』YES・NOの言葉を学んだ」など多くの評価する声をいただきました。

\*\*\*\*\*

## 市議会傍聴記

令和6年(2024年)第1回広島市議会定例会

2月26日、2月議会の総務委員会(委員数は9議員、内女性1人)を傍聴した(参加者5人)。

委員会では午前10時から昼休憩をはさみ14時30分頃まで質疑がおこなわれた。

主な議題は令和5年度(2024年度)広島市一般会計補正予算に関わるもの、広島市証明等手数料の一部を改正する条例、権利の放棄について、財産の取得について、入札不調で事業費が減額された案件や、契約手続きに日時を要した・施工内容の見直しによる工事の遅延・関係機関との調整に日時を要し事業が遅延などで次年度繰り越し予定事業の予定額が提示された。

なぜ入札が不調になったのか、関係機関との調整に日時を要したのかも詰めて議論してほしい。

その後、総務委員会付託請願・陳情については新たに提出された請願、受理番号18号「広島市職員の研修



資料として「教育勅語」の使用中止を求めることについて、番号19号「消費税インボイス制度の凍結を求めることについて」、番号20号「G7広島サミット記念コーナー(仮称)を設置しないことについて」の請願提出者からの趣旨説明が行われ、8件の請願について議論。委員外発言通告者(門田佳子議員)も質疑を行った。

番号12号「平和推進基本条例に即した厳粛な平和記念式典の開催について」は、継続審議1人、反対1人だったが賛成多数で採決され、他の請願については継続となった。

傍聴席は満席で市民の関心が高い案件だったと言える。それにしても、委員会メンバーも理事者側も女性が少なく残念。(貴田)



3月8日国際女性デーの日、広島市内の女性たちがとりくむフラワーデモ in ひろしまに参加しました。

最初に実父からの性被害をうけた女性の裁判に関わっておられる寺西弁護士から、裁判をとりくむ中で当事者が自らの尊厳を取り戻していることなどが話されました。

続いて広島市立大学教員の田浪亜央江さんからパレスチナにおけるイスラエルからの長年にわたる人権侵害の状況が報告されました。

筆者からは災害時における避難所での性犯罪の防止について「スフィア基準」や「避難所運営ガイドライン」が活かされていないこと、防災部署の職員が「女性ゼロ」の市区町村は昨年4月時点で、いまだ、全国で55%を超えており、10%でも女性が参加することで避難所での対応が全く変わることを、3月4日、元陸上自衛隊員で、自衛隊内で受けた性被害について実名で告発した五ノ井里奈さんに対し、アメリカ国防省が「世界の勇気ある女性賞」を送ったこと、裏を返せば、まだまだ我慢をしている人が多いということでもあり、「我慢が当たり前」の考えを改め、一人ひとりが一人の人間として尊厳が守られているか、人間らしい避難生活を送ることができるかをお互いに考えてみようと呼びました。

最後に参加していた女性に発言を依頼すると発言のなかで「自分も当事者であったこと」が打ち明けられました。(貴田)



\*\*\*\*\*

## 2024国際女性デーひろしま

### 今こそ「活」！女性たち立ち上がろう

講演 ジェンダー平等を女性の人権から考える

講師 若尾 典子 さん

その他 活動報告



2024年3月10日 合人社ウエンディヒと・まちプラザにて参加者100人で開催されました。

講師の若尾典子さん「女性の人権」から「ジェンダー」を考える話は、とても明瞭で力強く全身で訴え、参加者へ「活」を入れる笑いと迫力を感じる講演で

たっている私たちに叱咤激励を与えてくださいました。

2023年の日本のジェンダーギャップ指数は146か国中125位と過去最低の順位でした。女性の権利を国際基準に引き上げましょう。

そもそも、日本の女性の権利は戦後もなくできた憲法24条に明記されています。78年前に女性の権利を勝ち取っているのです。それなのに国際基準では例年低い位置、ジェンダー平等とは程遠い日本の現状。

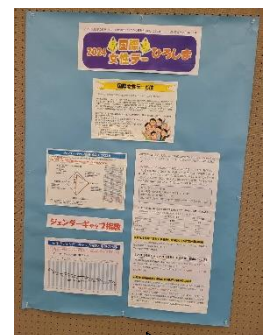
日本の遅れの原因は、特に政治と経済の男女差。世界各

国の女性の政治参加は着実に進んでいます、女性議員が50%以上を超える国は6カ国もありますが日本は10.3%です。何故こんなにも差があるのでしょうか？其のもっとも大きな理由は、改憲政党と経済界が昔の家制度への強い執着心をいつまでも誇示しているからです。何とかしたいですね。改革しなくては次世代までも現状が続きます。

最後にロシアのウクライナ侵攻についても語られました。「なぜ起きたのか」の答えは、もはや止めるべき時に権力者を止めることができない社会構造になっていたということです。

#### 参加者からのアンケート

「24条と9条が解体されることを防がなければと強く思った」「私たちが、あきらめず・言いつづける・手をつなぐ」など勇気をもらうメッセージがありました。



南棟ロビーで展示も行いました。

## <活動報告>

・広島平和記念公園とパールハーバー「国立記念公園」の

姉妹提携問題

報告者 辻 隆弘 さん

(被団協(佐久間理事長)平和公園ガイド団)

パールハーバーを見学。そこは軍事基地でした。

・ブラックといわれているけど…やりがいいっぱい!学校の今!!

報告者 秦 真世 さん (広島市教職員組合(全教))

仕事内容はブラックではない。先生は忙しすぎて**も**楽しさがいっぱい。

・病院の統廃合問題

報告者 富樫 恵 さん (広島県の地域医療を守る会)

地域の総合病院が無くなる。無くすなど住民運動開始。

・参加者の声

広島の課題・問題点を説明してもらい、問題が山積と感じた。

(山本)

## 会員活動紹介

安芸コスモス・ゾンタクラブ



### チャリティ 対談会「グローバルヒバクシャと核廃絶への道」

2023年12月10日

リーガロイヤルホテル広島にて約70余名の参加を集めて開催

対談者: 在日カザフスタン大使館 公使参事官 Batyrkhan Kurmanseit、平岡 敬 (元広島市長)

MC: 宮崎 園子(フリージャーナリスト 元朝日新聞記者)

ミニ演奏: 被爆バイオリン演奏 盛田 恵

対談はカザフスタンの核被害と広島との関わりを皮切りに(1990年5月に当時平岡氏が社長を務めていた中国放送とカザフスタン TV の衛星中継により両国のヒバクシャが対面した)現在のカザフスタンの対外核政策に焦点を集めて進められた。今日では核開発により多くの国の住民が被ばくしている実態が明かされている。彼らをグローバルヒバクシャと呼ぶ。中でも、旧ソ連による核実験がカザフスタン共和国で1949年より40年間に約456回以上、行われていた事実が注目を集めている。

今回の対談により、カザフスタン共和国では被ばくした歴史を住民が良く理解している事、また現在の核に対する恐怖は日本国民以上である事。原子力発電所建設の是非を問う国民投票を政府が準備している事。ウランなど多くの

地下資源に恵まれているにも関わらず原発に慎重に対応していることなどが説明された。公使は外交官による交渉の失敗が戦争につながる事を強調した。

核放棄に関しては、ソ連から独立後、1991年世界で4番目の核保有国となっていた中、多くの国々の協力のもと、1994年にはウクライナやベラルーシと共にロシアへの核の移行を完了していた。カザフスタンは核実験場があった事により広大な土地が今も汚染されたままである。

2025年3月ニューヨークの国連本部で行われる第3回核兵器禁止条約締結国会議にてカザフスタンは議長国を務める。特にグローバルヒバクシャに対する救済としての、国際信託基金設立に向けた準備が始まっていることに期待が込められている。(小島)

## 広島市女性団体連絡会議(ひろしま WENET)からのお知らせ

### ◆ 広島市女性団体連絡会議 2024 年度総会

日時: 2024年6月8日(土) 14時~16時

場所: 中区地域福祉センター5階

### ◆ ヒロシマ平和の灯のつどい

日時: 7月31日(水) 17:30~

場所: 平和記念公園等

たくさんの方のご参加をお待ちしています。



配偶者・交際相手からの暴力

内閣府  
DV相談プラス



内閣府 DV相談ナビ

はれれば  
#8008

WENET ニュース第57号 2024年3月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議

(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 貴田月美